

# 碩心

認可発行 風岳吟学院 日本詩吟 法人 川奈神 社団

5年6月	(251号)	5年6月	164名
根	行	者	234名
中	岸	者	441名
	編	岳	
	村	岳	
		萃	
		愛	

## 行事予定

◎第19回全国選抜者吟道大会

日時・7月11日(日)

場所・九段会館ホール

(碩心会から内山俊岳さんが出場)

◎第39回総本部夏季吟道講座

日時・7月24日(土)

日時・7月25日(日)

場所・九段会館ホール(応用講座)

場所・千代田区公会堂(基礎講座)

◎県本部指導者吟道講座

日時・8月8日(日) 9時受付

場所・防衛大学中ホール

参加費・七百元(含・弁当、テキスト)

(当日吟道手帳提出)

~~~~~ 8 ~~~~~

県本部事業中左記が平成五年より変更。

◇審査方法一部変更の件

70才から書取免除。

75才から教本をみてよい。

◇吟道講座の件

高段者吟道講座の七段・八段の部はなく

なります。

## 平成五年度 碩心会皆伝会議事録

日時・平成五年五月四日(火)

場所・堀内会館

議事

一、議長並びに書記任命

加藤総務部長より、議長選出について提

案あり、司会者一任の声により、議長に根

岸会長、副議長に加藤?千葉副副会長を選

出、議長より書記に宇都宮総務副部長選出。

二、議題

(1)各地区長、部長報告

葉山地区長 沼田 義 岳

先般横二地区吟道大会の出吟名簿を提出

したが、6月6日の碩心会温習会の直後で

あり出にくい状態で取纏めに苦労した。在

籍会員に一律に比率で割当てるのも止むな

しと思うが、実情に応じ緩和方願いたい。

4月新入会者会費は零となっているが、

あとから会計部から相当額を請求され、積

然としないので明確な説明をお願いしたい。

返子地区長 村田 澁 岳

来る5月16日の返子地区詩吟詩舞連盟、

6月6日の碩心会温習会、6月20日の横二

大会に協力をお願い。

大船地区長 (代) 岩 崎 恵 岳

木村地区長体調不調で欠席の為代って報告する。今年の地区温習会は大船地区が担当で、目下計画中ですがその節は御協力を。

総務部長 加藤 岳 洵

4月1日現在の会員数は447名(男145名・女302名)で、平均年齢は63.9才。昨年の入会者27名、退会者40名で13名減少。

今年度から80才以上の高齢者も会費及び許証料が、原則として普通会员と同様となるので御承知を。

会計部長 矢 島 悦 岳

平成4年度碩心会収支報告は5月17日の常任理事会、6月の理事会に報告して承認を得べく目下作成中。

広報部長 中 村 岳 愛

月報「碩心」に詩吟に関連する原稿の投稿をお願い。

4月号の会員数に間違いがあったので5月に訂正記事を出す。

許証部長 中 村 岳 郵

2月に行われた皆伝九十段の許証は5月1日付で認許されるが、6月6日の碩心会

温習会で授与する。

会員は従来一般・A(中学生以下)・B(80才以上)とに区分されていましたが、今年80才になる方からB制度がなくなり、一般会員として取扱われます。

企画部長 綾 部 秋 岳

1月10日の初吟会が盛会に終り、皆様の協力に厚くお礼申しあげる。

5月9日～10日の吟行会には52名の参加があり、バス一台で実施の予定。

教務部長 竹 石 岳 泓

7月11日の全国選抜大会に内山俊岳氏が出吟する。締切を5月7日に延長するので申込を。(現在4名参加)

7月24・25日の総本部夏季吟道講座は今年から東京と大阪二ヶ所で開講されるので基礎編、応要編制限なく受講できる。

現在基礎編に5名、応用編に6名の11名申込があるが5月25日締切にするので申込を。受講料は一万円。

(2)平成4年度会計報告

加藤総務部長から別紙の通り詳細報告あり、一八、一〇五円を次期繰越で承認。

(3)其の他

沼田葉山地区長の出吟割当の緩和要請について千葉副議長から、横二地区長の立場から、発足当時は出吟希望者が多く、その要請に応える為、県大会とは別に各四地区大会を実施することになったもので、多少衰退気味の現状はわかるが、むしろ会勢の伸張への意欲をもって、割当確保するように努力をお願い。

沼田地区長の新入会員の納入会費についての質問に対し、根岸会長から、元来、年単位、月単位の諸会費をまとめて、入会月毎に定めたもので、ご理解しにくい点があると思うので、常任理事会で再検討して対処するのでご了承願いたい。

又当会の男女の構成比率は全国的にも同様傾向で、特に変わった現象ではない。何とぞ碩心会会員の増加について皆さんの一層の御協力を願いたい。

議長がその他の質問、意見の有無を確認したが、格別なかったため、本日の議事終了を宣した。

## 詩吟の発声に魅せられて

銀 詠 三 壁 照 岳

「光陰矢の如し」：入会して早や十五年、千葉先生の御熱心な御指導のもと、未熟ながらも栄えある「皆伝」を戴く事が出来、喜びに堪えません。その喜びの反面、不安もまた絶えず胸中を走ります。

詩吟とはどのようなものかも知らず、お勤めにより、不安ながらも此の道に入りました。第一日目より、先生始め、先輩の方々の素晴らしい発声に魅せられてしまい、次のお稽古日が待ち遠しく、楽しい日々を送るようになりました。また、詩吟を続けてゆくうちに、慢性の腰痛も治り、姿勢も良くなつて来たと言われ、良いことばかりです。

風薫る五月四日、おそ咲きの桃の花咲く堀内会館にて皆伝会があり、新入生として出席させて頂いた事が出来ました。身に余る光栄と、深く感謝いたしております。

伝統ある吟道を、声の出る限り精進、努力して行きたいと思っております。千葉先生始め諸先生方、今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

## 碩心会吟行会

第一日目 見事なショーに感激

逗子B 海 津 勝 山

今日は吟行会の日。風薫る青葉の季節とはいえ、あいにくはつきりしないお天気でしたが朝早く起き、気持ち晴れやかに集合場所の逗子市役所前に着くと、もうバスが来ていて、予定時間の8時、52名を乗せて出発。

日曜なので道路もすいていて、車窓から眺める風景はまさに「目に青葉山ほととぎす初がつお」の句の如くで、山々の緑もさわやかで、又沿道のつつじや色々な草花を見ながら、気持ちよくバスは走る。途中の車中で根岸先生の御指導で「正気の歌」つついて松井先生の先導で「山陽旅情」を合吟。そのあとは皆様ののどを聞かせていただき、外ははつきりしない天気だがバスのなかには日本晴れ。

途中足柄インターその他で休憩。外の空気を吸い、いくつかのトンネルを抜けて無事豊川に到着。昼食時間なので、まず世に知られた稲荷寿司をいただき、お店の人の案内で稲荷神社に参拝。ここは珍しいことに、神社

とお寺が両方があるとのこと。神様へのお取次ぎであるという赤い前かけをかけた、一米もあるお狐さんに迎えられお参りをすませる。ばらつく雨の中をバスに乗り、次は大秘殿

へ。途中高い山上に杖をもった大きな弘法大師の姿が見え、見とれているうちに大秘殿に到着。バスを降り十界めぐりに向う。曲りくねった地下の大洞窟には数百体の石仏、百点あまりの壁仏画等々が延三百米の道にかざられていました。これらには見る人の戒である所と思えました。

バスは三ヶ根山を登り、行きついた所が「殉国七士の墓」。大きな慰霊碑が立っていて、国の為を思い御苦勞された人達の、礎があれはこそ、今の倅せがあると沁々思いお詣りさせて頂きました。

慰霊碑のすぎし戦士に雨かかりやがて今宵の宿三州園ホテルに着き、まず大浴場で今日の疲れをとり、浴衣に着かえて大広間に参集。根岸先生の御挨拶にはじまり、皆様のもど自慢を聞きながら食事をすませ、八時頃から一階ロビーで各地からの宿泊者達の中からの代表による東西カラオケ大会があり、碩心会から三人が参加、三人共賞を獲得。

つづいて今回のメインであるホテル従業員達

による見事なショーが始る。見事なばちさばきに鳴り響く三州園太鼓、安宅の関の弁慶の見事な踊り、沖繩舞踊等々、なかでも白い帽子に白い服、腰に短剣のりりしい軍服姿で歌う「軍歌集」には、当時を知る私達は心から

ひきつけられ、その中の台詞「こんなに早く死ぬ時がくるとは思わなかった。お母さん体を大事に長生きして下さい。行きます！」の言葉には胸つまり、涙がはらはらとこぼれました。社長一族はじめ、従業員の皆さんのバラエティに富んだ芸に見る方も力が入りました。

皆様の仲間に入れていただき、暖かいお心にふれながら楽しい旅ができ、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

知らない方とも

第二日目 親しくなれた楽しい旅

風 早 乾 彰 風

二日目は小雨模様で、雲上風呂からの眺望がきかないので残念でした。9時、ホテル従業員一同の見送りを受け出発。

30分程でガン封じの寺で有名な西浦不動着。ガン予防の法話を聞いたあと、戒壇めぐりを

しました。

再びバスに乗り、しばらく眠っていたらファンタジー館だった。竜宮館につながる道は世界110ヶ国から集めたという5千万個の貝で造形してあり、実に幻想的だった。

お昼前、庭園レストラン名志園に着く。小堀遠州流5千坪の大庭園は、東海の名苑といわれるだけあって、見事な芸術の庭だった。庭をバックに記念撮影をしたあと、園内の散歩など楽しんだ。

楽しかった旅もいよいよ終りに近づき、3ヶ日インターから東名高速で、焼津魚市場へ向う。現実にも引きもどされたように、夕食のことなど考えて買物をした。バスは再び東名高速を一路東に走り、車中では賑やかに御自慢ののどを披露しながら無事帰着。

二日間の短かい旅でしたが、知らない方とも親しくなれて、ほんとうに楽しい旅でした。企画部の方々に紙面をお借りして厚く御礼申しあげます。

~~~~~ 8 ~~~~~

この度頑心会吟行会に皆様御参加御協力いただき誠にありがとうございました。事故一つなく、楽しく終了いたしましたこと厚く御

礼申しあげます。又の機会にも又多数の方々が御参加下さるようお願い申しあげます。

企画部

### 五合庵での良寛の暮らし

良寛は寛政九年（一七九七）頃、茅葺きの小さな五合庵におよそ二十年間住んでいたといわれている。当時の建物は老朽化し、現在の草庵は大正三年に再建されたものであるが、その頃の良寛の暮らしぶりがうかがえる歌碑や句碑が今も附近に残されている。

索々五合庵

実に懸磬の如く然り

戸外竹一叢

壁上偈若干

釜中時に塵有り

竈裏に烟無し

仍隣寺の僧有り

時に敲く月下の門

あすからはわかなつまむとおもひしに

きのうもけふもゆきはふりけり

堂久保登盤 閑勢閑毛天久留 於知者可難

（焚くほどは 風がもてくる 落葉かな）

秋元梁岳 記

（退 会）

199 小川清風（上山口） 262 石井美風（長 柄）

346 大川良風（沼 間） 581 碓井祐風（長 柄）